

# 令和4年度

## 劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)

### 成果報告書

団 体 名	一般財団法人長野市文化芸術振興財団	
施 設 名	長野市芸術館	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業	
内 定 額 ( 総 額 )	6,010	(千円)
	公 演 事 業	6,010 (千円)
	人 材 養 成 事 業	0 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	0 (千円)

(1) 令和4年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	小野リサ ボサノヴァ・ライブ	8月12日	小野リサ(Vo/G)、二村希一(P)、クリス・シルバースタイン(B)、斉藤良(Dr)、長野市芸術館ジュニア合唱団	目標値	913
		メインホール		実績値	914
2	SKYE&FRIENDS～僕たちとシティ・ポップ～	11月20日	SKYE(スカイ)・尾崎亜美・ブレット&バター・南佳孝 他	目標値	913
		メインホール		実績値	724
3	宮川彬良プロデュース ふたりの歌謡ショウ	10月16日	宮川彬良(Pf)・米良美一(CT)・ダイナマイトしゃかりきサ～カス(Cho)長野市芸術館ジュニア合唱団 他	目標値	531
		メインホール		実績値	415

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

#### 自己評価

社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。

長野市芸術館における文化芸術の振興の取組は、4つの役割：『育む』・『楽しむ』・『創る』・『つなぐ』を掲げ、これらの実現を通し、地域の文化拠点としての機能を発揮していくことを目指している。この4項目をキーコンセプトとして組み立て、有機的に関連する形で実施。当初の狙いを予定通り実現できた。

#### ■出演者変更

助成事業2「SKYE&FRIENDS～僕たちとシティ・ポップ～」に当初出演予定だった小坂忠、佐野史郎(ナビゲーター)については、両名の健康上の理由で出演辞退となり、代わって南佳孝が出演した。

#### ■「楽しむ」×「つなぐ」 若い世代の聴衆の開拓

高齢化の進む地域でもあり、聴衆も高年齢層の比率が高いのが長野市の特徴でもある。今年度は、若い世代にアピールする事業、ファミリーで楽しめる事業に力を入れた。助成事業1「小野リサ ポサノヴァ・ライブ」は、当地では16年ぶりという小野リサライブを待ち焦がれていたという40代以下の来場者が半数を超えた。また、助成事業3「宮川彬良プロデュース ふたりの歌謡ショウ」は、昭和の時代にお茶の間で楽しんだ歌謡ショウの賑やかさを再現するような、童謡から昭和歌謡、「マツケンサンバII」で、世代を超えた来場者が楽しんだ。

#### ■「育む」×「創る」×「つなぐ」子どもたちの公演への参画

助成事業3「宮川彬良プロデュース ふたりの歌謡ショウ」には、公募による小学生キッズスタッフ8名が参加し、公演裏方業務、表方業務の一部を体験した。スタッフからの指導を受け、普段体験できない仕事に「楽しかった」「お客様にありがとうと言ってもらえてうれしかった」という感想が聞かれた。また、同公演、および助成事業1「小野リサ ポサノヴァ・ライブ」には長野市芸術館ジュニア合唱団も共演、プロの音楽家とともに音楽を作る体験をした。次世代の聴衆・実演家たちの「創る」体験、世代をつなぎはぐくむ機会となった。

#### ■「楽しむ」×「つなぐ」 鑑賞のために長野を訪れる

いずれの公演も独自性が高く市外・県外からの来場者も多くみられた。助成事業1「小野リサ ポサノヴァ・ライブ」は、前日に飯綱高原でフリーライブを行い、観光客も多く訪れた。助成事業2「SKYE&FRIENDS～僕たちとシティ・ポップ～」では約2割が県外からの来場者であり、神奈川・静岡・大阪といった遠方からも来場している。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

#### ■文化的意義

助成対象事業1「小野リサ ポサノヴァ・ライブ」は当地で16年ぶりのライブであり、また芸術館初のボサノヴァ・ライブとして、新たな来場者を獲得できた。助成対象事業2「SKYE&FRIENDS～僕たちとシティ・ポップ～」は、若い年代や海外の音楽ファンにも注目のジャパニーズ・シティ・ポップのレジェンドとも言えるアーティストたちのパワフルなステージに、現在のポップミュージックにつながる流れを見ることが出来る公演。助成対象事業3「宮川彬良プロデュース ふたりの歌謡ショウ」は、世代を超えて楽しめる音楽の本質を楽しいトークを交えて伝えることができた。

#### ■社会的意義

宮川彬良公演では子ども料金・カンガルー席（膝上鑑賞無料席）を設定、また、上述のキッズスタッフの参画や小野リサ公演・宮川彬良公演へのジュニア合唱団の出演など、幅広い世代にコンサートの喜びを届ける工夫を凝らし、幅広い世代が同じ時間を楽しむ場を創出した。

#### ■経済的意義

近隣で開催していない独自色の強い公演を開催することで、市外・県外からの集客をすることができた。特に県外からの来場者はコンサートに合わせ市内観光や外食、宿泊なども行うため、観光交流人口の増加とまちの賑わいづくりに貢献している。また、小野リサライブの前日に開催した飯綱高原でのフリーライブは野外会場であったため、事前に整理券を申し込んだ来場者のほかに当日周囲でアウトドアを楽しんでいた観光客もそれぞれの場所でゆったりと楽しんでいた。長野市の観光振興に芸術が果たせる役割を開拓することができ、今後の展開の参考にもなった。

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

令和4年度の取り組みとして、「あらゆる年代の市民が楽しめる事業」を柱とした事業を展開した。当館の主催公演の多くを占めるクラシック音楽の公演では50代以上の聴衆が多くを占めるが、来場者に限らない市民アンケートで聞かれた「様々なジャンルの音楽を聴きたい」「いろいろなアーティストのコンサートを聴きたい」というニーズにこたえる公演をラインナップした。ボサノヴァ、歌謡曲、シティ・ポップというジャンルの広がり、また、子どもたちとのかかわりにより子育て世代の来場を促すなどにより、若い世代の来場を促すことができた。

目標① 来場者に占めるターゲットとする年齢層を増加させる

特に助成事業3「宮川彬良プロデュース ふたりの歌謡ショウ」では、カンガルー席(3歳以下膝上鑑賞1名無料)、中学生以下券を設定し、子どもたちが来場しやすい公演となった。最終着券数のうち、中学生以下券は6.0%、カンガルー席は0.4%であり、子どもたちの姿が比較的多くみられた。また、このほかにキッズスタッフ(8名)の参加もあり、キッズスタッフの家族なども含め、他公演に比べて若いファミリーの来場が多くみられ、特に40代の来場者が18%と、比較的高い数字となった。

助成事業1「小野リサ ボサノヴァ・ライブ」では、40代、50代の来場者が51%、30代以下が10%と、半数以上が若い年代の来場者であり、従来の客層をより広げることができた。

目標②新規来場者の獲得

助成対象事業2「SKYE&FRIENDS～僕たちとシティ・ポップ～」ではアンケート回答者の37%が、助成事業1「小野リサ ボサノヴァ・ライブ」では31%が初めて当館に足を運んだ聴衆であった。様々なジャンルの公演を開催することにより、多くの市民に訴求することができ、劇場へ足を運ぶはじめの一步のきっかけづくりとすることができた。

また、助成対象事業2「SKYE&FRIENDS～僕たちとシティ・ポップ～」は、長野県外からの来場者が約2割を占めた。魅力ある公演の鑑賞を機に長野市を訪れることにより、交流人口増にも寄与する公演としての目的を果たすことができた。



←助成事業3 キッズスタッフ

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

各事業において当初の計画に沿って実施した。

助成対象事業1「小野リサ ボサノヴァ・ナイト」は、本公演を夏の宵に、前日のフリーライブを祝日（山の日）に飯綱山で開催した。この時期はキャンプや行楽のトップシーズンであり、多くの観光客で賑わう会場でのライブを計画した。結果として、整理券は配布日に即日終了し、当日はエリア外での立ち見客も多く訪れ、文化芸術による交流促進に寄与した。これはボサノヴァの特性や新しい観光施設との連携したプロモーションの効果であると推察でき、事業期間の設定が適切だったと考える。



←助成事業1 フリーライブ

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

各事業において概ね計画通りに実行し、計画時と比較して前後 20%以内の決算を達成した。特に助成対象事業1及び3については、ほぼ計画通りの決算となっており、正しい積算及び事業執行を達成できている。

助成対象事業2「SKYE&FRIENDS～僕たちとシティ・ポップ～」では、計画時と比較し 18.6%の増となっている。主な要因として、出演アーティストを長野に招聘して実施したプロモーション活動を新たに実施したためであり、その他事業費については計画通りに執行した。

なお、事業費の計画及び執行については、過剰にならないよう1事業ごと管理し、特に広告宣伝費に関しては、事業ごと適当な広報手段を検討し、精査した上で実行している。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

3つの助成対象事業を開催したメインホールは、長野市芸術館の3つのホールの中で1292隻と最も客席数の大きなホールである。多目的ホールでありながら優れた音響を持ち、客席との程よい距離感もあわせ、市内で音楽を楽しむのならやはり芸術館で、という意識は市民に定着してきている。そのような会場で開催した今回の事業は、いずれも質の高い音楽を他では聞けない共演者やプログラムで楽しめる、独自性の高さが聴衆に評価された。

助成対象事業1「小野リサ ボサノヴァ・ライブ」は、当地で行われた16年ぶりのライブ、かつ、前日のフリーライブも含め、リゾートシーズンにふさわしいリラックスして楽しめるライブとしてアピールした。プログラム後半にはブラジルだけでなく世界各国の音楽を盛り込むほか、長野市芸術館ジュニア合唱団との共演によりNHK『みんなのうた』で過去放送された小野リサ作曲の「太陽の子どもたち」を演奏、バラエティにあふれたプログラムで初めての来場者も楽しめる、そして小野リサのヴォーカルの魅力と音楽的なキャパシティの広さも存分に感じさせる公演となった。

助成対象事業2「SKYE&FRIENDS～僕たちとシティ・ポップ～」はジャパニーズ・シティ・ポップのパイオニアでもあるミュージシャンたちが、その長いキャリアからくる円熟味を感じさせる一方で新鮮なパフォーマンスも見せた。熱気あふれるライブでありながら今も世界で評価され続ける美しくポップな音楽は当館の響きにもよく合っていた。近隣での同ライブの開催がなかったこともあり、わざわざ足を運ぶ価値があるという評価をいただいた。

助成対象事業3「宮川彬良プロデュース ふたりの歌謡ショー」は、当館のシーズンプログラム・プロデューサーでもある音楽家・宮川彬良との企画。米良美一（カウンターテナー）との共演は当館では2回目だが、過去の来場者から再共演のリクエストも多く寄せられていた。さらに圧倒的な歌唱力とパフォーマンスのダイナミットしゃかりきサ～カス（コーラス）も迎え、昭和の歌謡曲はポップに、米良の代表曲である《もののけ姫》は長野市芸術館ジュニア合唱団との共演で幽玄に、また、米良の渾身の歌唱で聴かせる《手紙》《やから道》では客席に涙を誘い、宮川彬良作曲の平成の大ヒットソング《マツケンサンバⅡ》は全出演者が出演して歌い踊るなど、「歌謡ショー」というタイトルにふさわしい華やかなプログラムで、非日常の劇場での時間の楽しさをアピールすることもできた。



←助成事業1

## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

ボサノヴァやシティ・ポップなど幅広いジャンルの芸術を提供することができ、またその編成や公演のカラー、キャラクターを明確にしたことで、これまでコンサート会場に足を運んでいなかった様々な層にアピールすることができた。

コロナ禍以降、当館でも公演中止を余儀なくされ、また客席の間隔を空けステージとの距離も保つなど、様々な工夫をした上演となっていた。コンテンツの魅力は変わらないものの、客席も一体となる熱気はどうしても低くなり、来場者からも以前のようなフルキャパの公演を待ち望む声が多く上がっていた。

今年度、感染拡大状況が落ち着き始めたことで、客席での発声をご遠慮いただきながらもフルキャパでの開催とすることができた。コンサートホールで生の演奏を聴くことの楽しさ、劇場でしか伝わらない、人が演奏することによる迫力、客席が一体となる興奮などパフォーマンスアートの喜びを多くの人々に味わっていただくことができ、いずれの公演でも「やはり生の演奏は違う」という感想は多く聞かれた。

助成対象事業1「小野リサ ボサノヴァ・ライブ」、および助成事業3「宮川彬良プロデュース ふたりの歌謡ショウ」には長野市芸術館ジュニア合唱団が出演、日ごろのレパートリーとは異なる曲をステージで披露する機会となり、表現の幅を広げる良い機会となった。

また、助成事業3「宮川彬良プロデュース ふたりの歌謡ショウ」に参加したキッズスタッフからは、「いつも見られないコンサートの裏側を見られて面白かった」という感想も聞かれた。

小野リサ、宮川彬良、米良美一といったアーティストとの共演に感動し、その音楽を吸収したジュニア合唱団員、コンサートができるまでを体験することでより劇場を身近に感じられたというキッズスタッフは将来の長野市の文化活動を担う世代でもある。こうした若い世代（およびその親世代）が劇場につながり、劇場での鑑賞の魅力を感じる機会ともなった。



←事業事業3 ジュニア合唱団との共演

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

開館当初のクラシック音楽中心の事業企画から、ポップスやジャンル横断のミュージックショウなどジャンルを広げていくことができ、劇場のファン層を広げていくことができた。

助成対象事業1「小野リサ ポサノヴァ・ライブ」に関連して開催した野外ライブは、観光シーズンのイベントとしての公演、リゾートの中での芸術の気軽な楽しみ方の提案として、今後の事業への示唆に富んでいたと評価している。また、野外公演・ホール公演両日とも来場した人も多く、劇場の外の地域と劇場とのつながりを強めることにもつながった。

助成対象事業2「SKYE&FRIENDS～僕たちとシティ・ポップ～」のように、近隣で開催のない独自色のある公演を開催することで、市外・県外からのいわゆる「遠征」の聴衆を招き入れることができた。またその聴衆が長野市内を観光するなどまちの賑わい創出にもつなげていけるため、地元商工業者との連携などに可能性を見ることができた。初めての来場者の割合も他公演に比べて高く、芸術館＝クラシックというイメージを一新することもできた。

助成事業3「宮川彬良プロデュース ふたりの歌謡ショウ」では、特に若い世代が主体的に、公演の作り手（ジュニア合唱団、キッズスタッフ）として参画することで芸術が生まれる現場を体感することで、よりその魅力を感じてもらえる機会となった。また、子どもたちの姿が場内に暖かい空気を醸し出し、劇場はリラックスして楽しめる場所だと印象付けることもできた。

こうした点から、当館の目指す4つの役割：『育む』・『楽しむ』・『創る』・『つなぐ』を存分に発揮することができたと評価している。劇場が様々な可能性に満ちた場所であること、気負わず身近に楽しめる場所でありながら、非日常の喜びを得られる場所であることを印象付けることができた。こうした劇場の在り方をさらに持続的に発信し、充実させていくための道筋をつけていくことができたと評価している。



←事業事業2